

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	じえいあーるこいわいえきかつせいかじぎょう
1. 事業(施策)の名称	JR小岩井駅活性化事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成30年4月1日 ～ 令和6年3月31日
3. 事業費(工事費)	153 百万円
4. キーワード	駅前広場・駅舎等の一体整備、歴史的・文化的価値の保存活用
5. 事業概要	
JR小岩井駅活性化事業は、JR東日本が管理していた駅前広場やトイレを市で取得・整備し、利用者の安全性確保及び利便性向上を図った。さらに市・JR東日本・小岩井農牧の3者で大正時代に建築された駅舎の復元改修を行い、市が譲渡を受け複合交通施設として管理を行っている。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	() () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(e)開設当初(大正)に復元された駅舎 (f)駅舎内に交流スペースを設置 () ()	(e)トイレサイン設置(岩手広告賞入賞) (e)国の登録有形文化財の活用(予定) (f)駅舎管理を地域(自治会)へ委託 (g)交流スペースによるコミュニティ形成

7. 特にアピールしたい点
JR東日本で管理していた小岩井駅舎を、周辺に重要文化財を所有する小岩井農牧の協力の下、開業当時(大正時代)の姿を保存活用しながら、地域の交流拠点として活用されるようにJR東日本と市で改修した。駅舎は市が譲渡を受け、清掃等の維持管理業務の一部を地域(自治会)へ委託している。改修で整備した交流スペースでは地域住民の通いの場となる地域サロンなどを開催している。また、改築したトイレには当駅を何度も訪れていた詩人・宮沢賢治をイメージしたデザインを使用し、駅舎とともに地域の歴史的・文化的な価値を発信し、まちづくりに寄与している。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



▲整備後のJR小岩井駅周辺(R6.5月撮影)



▲小岩井駅復元リニューアル記念式典の様子

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【事業概要】

JR小岩井駅は地域住民や観光の足として鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関が発着する交通結節点となっている。小岩井地域の小・中学校へ通う児童・生徒は電車通学のため当駅を利用しているが、JR東日本で管理している駅前広場は歩道が整備されておらず、送迎車と利用者が交錯し、危険な状態であった。平成28年度には地域から駅前広場の整備、駅舎及び隣接する別棟のトイレ改修に関する陳情書が提出され、地域やJR東日本との協議により早期に児童・生徒の安全確保や利用者の利便性向上を図るため、市が用地取得を行い、平成30年度から駅前広場の整備、令和2年度からトイレの改修を実施した。

また、駅舎の待合室が狭小であったことから、待合環境の改善や地域コミュニティの場を兼ねた交流スペースを整備することについてJR東日本と協議を行い、市が用地取得し、JR東日本が駅舎を改修後に市に譲渡し、複合交通施設として管理することで合意した。老朽化した駅舎の改修については、小岩井農場にある重要文化財との関連性もあることから、所有者である小岩井農牧の協力のもと、令和5年度に開業当時の姿に復元するリニューアル工事を行った。駅舎譲渡後は市が維持管理業務の一部を地域へ委託するなど、地域主体の管理を行うとともに、交流スペースを活用した地域サロンの開催など、地域コミュニティの形成に寄与している。

1. 駅前広場整備

以前の駅前広場は車道や歩道がなく、送迎車と駅利用者が交錯する危険な状況であり、さらに路線バスが乗り入れることから、特に児童・生徒の安全確保のため早期整備が望まれていた。平成28年度に地域の陳情書が請願として採択されたことから、JR東日本と整備に向けた協議を行い、市が駅前広場の整備と管理を行うことで合意を得た。平成30年度に測量設計、令和元年度に用地買収、令和2年度に広場ロータリーの車道部、令和3年度にロータリー歩道部と駐輪場の整備を行った。整備に際しては信号交差点横断部やタクシー乗り場までの動線をカラーペイントで分けし、歩行者通行帯を明確にすることで、利用者の安全確保を図った。

また、観光資源である「小岩井農場」の最寄り駅として国内外問わず多くの観光客が利用するため、観光案内板などを整備した。



整備前〔駅前広場〕



整備後(R3.2月)〔駅前広場〕

・事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

2. トイレ整備

駅前広場にあるトイレについては、汲み取り式で老朽化しており、悪臭など周辺に影響を及ぼしていたことから、交通結節点として環境の改善が必要であった。広場同様、JR東日本と協議を行い、市が施設の譲渡を受けることで合意し、令和2年度に建築設計、令和3年度に用地買収等、令和4年度に解体・新築工事を行った。当駅は路線バス、タクシーの利用者もいることから、待合室を併設することにより、地域の公共交通利用者の待合環境改善を図った。また、利用者にトイレであることがわかりやすいサインとして、当駅を何度も訪れたことがある詩人・宮沢賢治をイメージしたトイレサインや、小岩井農場を思わせるデザインに引き戸のドア操作を利用した仕掛けのあるサインを設置した。これらのサインは観光客にも遠くから視認しやすいデザインと評価を受け、「岩手広告賞 屋外広告の部 奨励賞」を受賞した。



整備前〔公衆トイレ〕



整備後〔公衆トイレ〕



▲宮沢賢治をイメージしたサイン



▲引き戸を利用した仕掛けのある小岩井農場をイメージしたサイン

3. 駅舎整備

JR小岩井駅舎は大正 10 年に建築以来、国鉄(当時)及びJR東日本が維持管理を行っており駅舎整備に向けた協議を開始した当初は、老朽化に伴う取替として最低限の機能を確保した駅舎の建替えをJR東日本から提案された。市としても多額の費用負担を要する計画となり、当時の財政状況から駅舎整備の実現は困難であると判断していたところ、小岩井農牧より自社で所有している重要文化財や宮沢賢治との関連性を基にした既存駅舎の保存活用の提案をいただいた。文化的・歴史的な価値を考慮した結果、国の登録有形文化財登録を見据え、JR東日本主体による駅舎の復元工事を実施し、工事完了後は市が用地を取得し駅舎の譲渡を受けることで合意した。

改修に係る設計段階では小岩井農牧の協力のもと、建築当時の写真を参考に建具等の部材の選定や、モノクロ写真のAI復元技術等(角 哲氏(北海道大学大学院工学研究院准教授)監修)を活用しながら色味を選定。併せて地域の説明会や意見交換会等を開催し、今後の小岩井駅の活用や管理について協議が進められた。

令和5年4月に着工し、同年 11 月竣工。駅無人化に伴い、駅事務室を交流スペースとして整備することで待合機能も改善され、利用者の利便性が向上した。駅舎内装も開業当時の年代に建設された建造物等を参考とした照明などが設置され、長編詩「春と修羅」をイメージした宮沢賢治のアートパネル等も設置。JR車両のシートをリメイクしたベンチ、駅開業と同年代の小岩井農場産木材を使用した駅標や什器を小岩井農牧の寄贈により設置された。

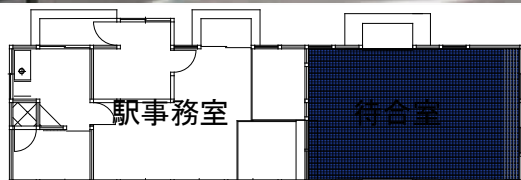
令和5年 12 月3日(日)には、小岩井駅完成を記念して三者(JR東日本、小岩井農牧、市)共催による式典を開催。地域住民を含め 500 人を超える来場者にお越しいただき、新しい駅舎の完成を祝った。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

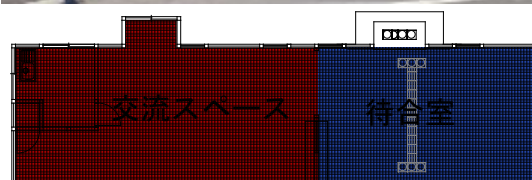
駅舎譲渡後は、駅舎やトイレの清掃等の維持管理業務の一部を地域へ委託。地域主体による美化活動やイベント等の開催も積極的に行われている。また、新たに設置された交流スペースでは自治会活動のほか、地域住民による地域サロンの開催や地場産品等の販売が行われており、通いの場となるコミュニティ施設として活用されている。

現在、国の有形文化財登録を申請中であり、令和7年度の登録を見込んでいる。次年度には登録を記念したイベントを地域や関係機関と連携して開催予定であり、小岩井農場の玄関口として宮沢賢治はじめ多様な人物が利用した歴史的建造物をPRすることで、地域コミュニティ及び観光の拠点として多くの人が訪れることを期待している。

【駅舎外観】



整備前〔駅舎〕



整備後〔駅舎〕

【駅舎内装】



(左) 宮沢賢治アートパネル、小岩井農牧寄贈によるJR車両シートをリメイクしたベンチ

(中) 駅事務室を交流スペースとして改修。切符売り場はそのまま残している

(右) 小岩井農場産木材を使用した椅子やテーブル

【地域主催の活動等】



(左) 地元保育園児による花壇植栽

(中) こいわい駅まつり 宮沢賢治紙しばい

(右) こいわい駅まつり ジャズコンサート、モミの木クリスマスツリー点灯式(小岩井農牧提供)